

事業名称	ONE DANCE in 姫音祭
団体名・代表者	キミレバ・ワン 代表 野村侑子
協働の相手方	文化国際課

目的	本事業は、播州地域に点在する多様なダンススタジオや若者たちが姫路に集い、地域を越えたつながりと学びを育むことを目的として実施しました。 ダンスを軸とした文化活動を通じて、姫路に息づく表現力や人の魅力を可視化し、地域への誇りや愛着を育むとともに、播州ダンスカルチャーの活性化と発信力の向上を目指しました。 また、市民的文化祭「姫音祭」との共催により、ダンスに限らず音楽や市民参加型企画との融合を図り、多世代・多分野の交流が生まれる開かれた文化の場を創出することを目的としました。 あわせて、部活動の地域移行（姫カツ）を見据え、地域が担う新たな学びの場としての可能性を探る取り組みとして位置づけています。
内容	・播州エリアのダンススタジオ・チームによるパフォーマンス発表 ・市民的文化祭「姫音祭」との共催による音楽・文化コンテンツとの融合 ・東洋大学附属中学校・高等学校の生徒によるパフォーマンス出演 ・同校生徒によるイベント運営スタッフ体験（受付、進行補助、設営等） ・SNS や映像を活用した事業の記録・発信
事業経過	事前準備段階では、出演団体や学校、関係者との調整を行い、誰もが参加しやすい開かれた事業設計を行いました。当日は、出演者・来場者・運営スタッフが一体となり、ダンスや音楽を通じて自然な交流が生まれる場となりました。 東洋大学附属中学校・高等学校の生徒は、出演者として舞台に立つだけでなく、運営にも関わることで、イベントが多くの人々の協力によって成り立っていることを体感しました。
事業の効果	・スタジオや世代の枠を越えた交流が生まれ、播州地域における文化的なつながりが強化されました。 ・若者が地域文化の担い手として関わることで、地域への誇りや主体性を育むきっかけとなりました。 ・運営体験を通じて、生徒たちは社会性や協働する力を学び、学校外での実践的な成長機会を得ることができました。 ・発信活動を通じて、姫路・播州エリアの文化的魅力を内外に伝えることができました。
今後の展望	本事業で得られた経験やつながりを活かし、今後はより多くの若者や地域住民が関われる継続的な文化活動へと発展させていきたいと考えています。 特に、部活動の地域移行を見据え、学校・地域・民間が連携した実践的な学びの場づくりを進め、地域全体で子どもたちを育てる仕組みの構築を目指します。 また、引き続き発信にも力を入れ、姫路の文化が地域内にとどまらず、外部とも響き合う存在となるよう取り組んでいきます。

【実施団体の事業総括・感想等】

本事業は、播州地域のダンススタジオや若者たちが姫路に集い、表現活動を通じて地域を越えたつながりを育むことを目的として実施しました。 市民的文化祭「姫音祭」との共催により、ダンスに限らず音楽や市民参加型企画と交わる、開かれた文化交流の場となりました。 また、東洋大学附属中学校・高等学校の生徒が、パフォーマンス出演に加えてイベント運営にも関わることで、表現と運営の両面を体験し、地域と関わる実践的な学びの機会となりました。世代や立場を越えた自然な交流が生まれ、地域文化への誇りや愛着を育むきっかけになったと感じて
--

います。
本事業で得た経験やつながりを活かし、今後も地域とともに育つ文化活動を継続していきたいと考えています。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

今回の事業テーマであるダンスを軸として、子どもたちが自分を表現する経験を積むだけでなく運営、発信活動なども体験できた今回の事業については、当室が推進する社会参加及び地域文化の発信といった事業の要素を取り入れたものであり、一定の成果は得られたと考えている。

実施団体の「今後の展望」にも記述があるとおり、この事業をもって終わりではなく、若者や地域住民との交流が継続していくよう事業が発展していくことを期待したい。